

平成 29 年度 研究推進計画

【1】 教育目標

やさしさいっぱい 夢がいっぱい 笑顔いっぱい 楽しい壱小！

本校の教育目標

自ら学び、心豊かにたくましく生きる子

めざす学校像

- 仲間と共に高めあう学校
- どの子ども生かされ伸びていく学校
- 地域に開かれ、信頼される学校

めざす児童像

- 自ら学び、よく考える子
- 思いやりのある子
- 心身ともに健康でたくましい子

めざす教師像

- 豊かな人間性と教育的愛情をもつ教師
- 学ぶ喜びを知り、自ら学び続ける教師
- 組織と連携し、協働できる教師

教育目標の達成に向けた基本方針

- 楽しい授業・工夫のある授業を通して、主体的に学ぶ意欲を育て、確かな学力を身につかせ、創造力豊かな子どもの育成に努める。
- 学習や生活の基盤として、基本的な生活習慣や社会規範を身につかせ、思いやりの心や自主性を育てる。
- 自尊感情を高めるとともに、仲間と協力し合い、共に伸びることの大切さや喜びを味わえるような集団づくりに努める。
- 運動する楽しさが分かる体育科授業や運動に親しむ活動の充実・外遊びの奨励など、体力向上に努める。

【2】 研究主題

◆ 主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成

—— 書くことを通して ——

主題設定について

(1) 今日的教育課題から

変化の激しい現代社会を生きていく児童を育てるために、日々の学習で児童に身につけさせる力は、課題に対して積極的に向き合い、解決に向けて粘り強く取り組む力である。そのために、日々の学習では、考えをまとめたり話し合ったり伝えたりする活動をしながら、主体的・対話的な深い学びを進め、得た知識を活用できるような力を育てたいと考える。

(2) 本校の教育目標から

本校の教育目標、「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子」の具現化に向け、子どもたちが主体的に学び、困難な課題にも最後まで粘り強く取り組む力を育てることは、たくましく生きることにつながっていく。また、思いや考えを伝え合うことは、心の豊かさにもつながっていくと考える。

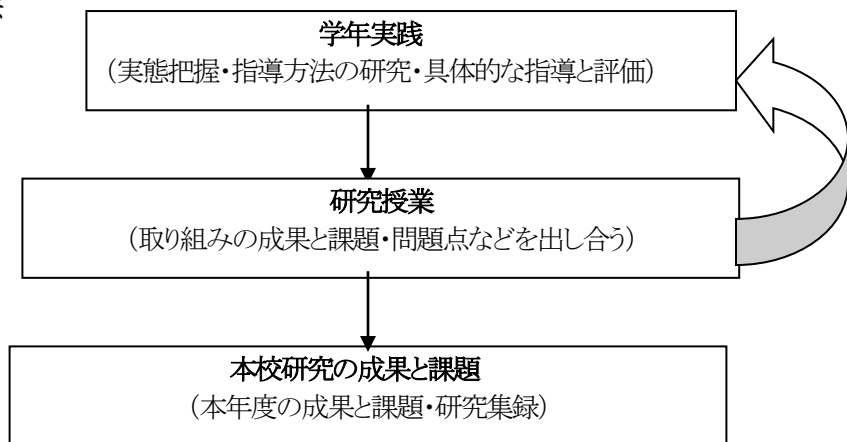
(3) これまでの研究の成果と課題から

本校では3年間、コミュニケーション力の向上を目指し、言語活動を充実させる指導法についての研究を行ってきた。教科を国語にしぼり、「話す」・「聞く」・さらに「話し合う」ことの力を付けられるよう研究を進め、日頃の授業でも、意識的に話したり聞いたりする活動を取り入れるようにしてきた。その結果、積極的に話そうとしたり、友だちの意見に耳を傾けようとしたりする態度が育ち、活発な意見交流もできるようになってきた。高学年では、話し合い活動がうまく進められるようになったという成果も見られた。

一方、「話す」活動の前に、まず自分の考えを書くようにしたところ、うまく文で書き表せないという状況が見られるなど、「書く力」に弱さがあることが課題として出てきた。そこで、今年度からは、「書く力」を育てられるよう研究を進め、「書く意欲」と「書く能力」の向上を目指したい。書く意欲を向上させるために、活動に見通しをもたせたり、書く場面を数多く設定したりしながら、効果的な学習方法を研究する。また、「書くこと」の基礎・基本を身に付ける日常的な取り組みも進めていきたい。

この3年間の「話す・聞く活動」で身に付けてきた、伝え合う力を生かしながら、今度は「書くこと」を通して、さらに自分の思いや考えを伝える力を伸ばしていきたいと考える。

【3】研究方法



研究主題についての実践

(1) 指導法の開発・収集と教師の意識づけ

- ・ 書籍や雑誌を参考にしたりして研修する。
- ・ 学年を中心として、常に取り組みを交流して研修を深めていく。

- ・ 学年実践、および研究授業は、児童の能力を高めるだけでなく、教師としての資質を高めるためのものである。前向きな取り組みができるよう協力して進めていく。

(2) 研究授業の充実

①研究授業

- ◎ 国語科で行う。単元については、B領域「書くこと」にしぼって、書く力の向上をねらう観点で行う。
- 全体研修 2回(低学年1, 高学年1)
全員で参観し、講師を招聘しての研修。
公開授業・研究討議を行う。(6月・11月の予定)
- 学年研修 4回(全体研修を行わない学年)
公開授業・研究討議を行う。
低・中・高から一人ずつ参観する。
(いちぶ, 専科・少人数は, 可能な範囲で参加)
- いちぶ学級研修 1回(学年研修に準ずる)
人権教育部の公開授業と兼ねて行う。
- 専科・少人数研修 1回(学年研修に準ずる・大きなテーマを受けた内容)

※ 上記の研究授業をしなかった担任は, 上記研修に向けての前授業などを行い, 学年での研修を深める。

(3) 表現を豊かにする活動の充実

①「書く」活動

- 他教科や活動の中でも, 書く活動を意識的に取り入れる。
- 楽しく書くことができるような題材の工夫をする,
- 学習指導要領をもとに, 児童に足りない力, 児童につけたい力を見極め, この一年でつけたい力を明確にする。
- 「書く」学習活動についての評価は, 学習指導要領, 指導書にある評価規準表, 評価規準系統表を活用する。
- 評価規準をもとに児童の到達度を評価し, 次の活動へ生かす。

②歌声タイム

- 歌うことは, 声を出す・表情をつくる・自分の思いを伝える力を育てる。
- 全校で継続的に取り組む。
- 全校では, 全校朝会の「全校歌声タイム」で声を合わせて歌う。

(4) 豊かな言語環境作り

○ 朝の読書「全校読書タイム」

- ・ 静かに読書する環境作り
- ・ 多くの本に出会うきっかけ作り
(学級文庫の交換・教科書に出てくる本の紹介など)
- ・ 読書の楽しさを味わうことができる工夫

- ・ 読書により語彙を増やす
- ・ 地域の人材活用（読み聞かせ）
- ・ P T Aへの呼びかけ（蔵書数を増やす）

基礎学力充実についての実践

- ◎ 朝の学習タイムだけでなく、学習活動全般で行っていく。
- (1) 年度初めに、計算・漢字の定着について実態を把握する。
- (2) 学年の課題を明確にし、実態に応じた取り組みを工夫して行う。
- (3) 各学年の取り組みを集め、「取り組みバンク」を充実させていく。